

森のお便り 11月号 2012年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」 12年 11月 1日発行 通巻 117号

10TH ANNIVERSARY GRAND FINALE

～スタッフがつむぐいとうづのもりがたり～

期間：10月20日(土)～12月29日(土)の10週間

到津の森公園は今年で10周年。「市民がつむぐ いとうづのもりがたり」で幕が開き、夏には市民ボランティアにバトンタッチされ、グランドフィナーレは、スタッフがつむぐこととなりました。

スタッフの思いはひとつ、「動物たちと一緒に10周年を祝いたい!!」。そこで、「動物たちに贈る10のプレゼント」と「今後叶えたい10のプラン」の2つの企画を立てました。そして、これまでの10年を振り返りながら、これからもその思いをつむいでいくことを意識して、秋の企画展のタイトルを「てん、」としました。ぜひ、園内で、そして企画展会場で、この節目となる10年のフィナーレ事業を体感して下さい。

★動物たちに贈る10のプレゼント!

実施場所:園内各所

「木、土、水、遊具」をテーマにプレゼントを企画し、動物たちと一緒に10周年を祝います。ジェフロイクモザルの来園(12月中旬公開予定)に備え新居を準備したり、マンドリルにたくさんの樹木を、ニホンザルには温泉をプレゼントしたりするなど、その驚きのプレゼントを動物たちはどう受けとめてくれるでしょうか。

★今後叶えたい10のプラン!

実施場所:管理センター 2Fロビー

スタッフが動物園で叶えたいと思うたくさんの提案の中から一部を試験的に実施して、その効果や導入に向けての課題を探ります。夜のライブカメラ中継やモバイルマップ、音だし看板、エサやり補助道具など、期間中はユニークな提案を試験的に体感できます。どんな結果になるかは、あなたの目で確かめて下さい。

☆～森のおはなし探検隊～☆

子どもから大人の方まで楽しめるプログラムを月替わりで用意しています。多くの方のご参加をお待ちしています。



11月のテーマは、「お楽しみ!」

日時:11月18日(日) 13:00～14:00

場所:子どもホール2階集合

参加費:無料(別途要入園料)



☆～クリスマスリースを作ろう～☆

市民ボランティア「森の仲間たち」の主催により松ぼっくりやどんぐりなどの自然素材を使って自分だけのクリスマスリースを手づくりします!



日時:12月2日(日)・9日(日) 各日 13:00～14:00

※受付は13:00～13:45(材料がなくなり次第終了)

場所:里のいきもの館 レクチャールーム

参加費:1個300円(別途要入園料)



天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち

「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>



はや11月。7日にはもう立冬を迎えます。あれほど厳しかった夏の暑さからすると、寒さが遅いのではと思いきや、そんな年ほど冬も又厳しいと聞いた事があります。そろそろ朝夕は寒さを感じますね。

そして秋色濃い自然には散歩心を誘われます。「到津の森」を訪ねると、ツブキの花の黄の色が足元を照らし、鳥の落とし物から芽生えたのか、マンリョウがあちこちで実をつけて、寒さの近い事を教えてくれています。と思いにふけていると、子供連れのおばあちゃん達がやって来ました。手にはシイの実の入った袋を持っています。

つい先日までシイの実が革袋のようなカラ(殻斗)にしっかり包まれていたのに、成熟するとその名の通り殻を脱いで地上へ旅立つ。そう11月は到津のシイの実が落ちる頃なのです。

昔お祭りの屋台で大きなシイの実を炒って売られていたのを思い出しました。おじさんに聞くと対馬のシイだよと言っておられましたが、はてさて... 図鑑を見ると、オキナワジイという種類が似ているようですが。

マテバシイという大きなドングリの実を拾って帰った事もあり、これはクリ等と同じアク抜きが必要のないドングリなので、すぐに母が茹でてくれ、「山の味がするね。古代の人はこれが大切な食料だったやろうね。」と言って食べさせてくれました。うす甘くたいして美味しい物ではなかった気がします。でもくせがなく、大きいので手間が省けてドングリクッキーにはいいですね。

【ドングリクッキーを作ってみよう！】

A シイやマテバシイの皮をむいて 200gを茹でて潰す

B 粉 200g 砂糖 150g バター100g 卵1個

A・Bを合わせて、冷蔵庫で冷やす

子供達と好きな形に作る

焼き上げるのは、オーブントースター・フライパンでも可

香料の入っていない野性の味もたまには、子供達に味わってもらいましょう。そう言いながら実際のところ、ドングリを食べて育ったイベリコ豚でワインがいいなど、のたまう大人になってしまいますが。

マテバシイは街中でも案外よく公園に植栽されています。ドングリの仲間達は、別にうんちくを述べなくても美味しいし可愛いだけで充分魅力的な物ですが、実や葉を拾って帰り図鑑で見比べてみて下さい。地域による分布の違い、常緑・落葉、殻斗(カラ)の違い、ドングリに付く寄生虫(ハイイロチョッキリなんて奴もいる)等々。どこまでも興味深い話がいっぱいです。

初冬の日をドングリ三昧でお楽しみ下さい。

文:花咲くおばさん

花暦 霜月

森のなかま・モルモット

「ふるさとは到津の森公園」

10月4日に「モルモットの譲渡式」がありました。到津の森公園生まれの8頭のモルモットが4つの小学校にもらわれていきました。

21年度から始まった学校飼育動物支援事業。北九州市教育委員会と北九州市獣医師会、北九州市動物愛護センターが中心となって、各学校の飼育舎へのアドバイスやふれあい授業などを行う中で、ウサギよりもおとなしく飼いやすいモルモットの飼育を勧めています。

その飼育するモルモットを、到津の森公園が協力してこれまで16校へ41頭をお渡ししてきました。少し前の8月に学校飼育動物シンポジウムがあり、飼育している小学校のモルモットへの愛情あふれる報告を聞くことができ、みんな幸せに飼われているようでうれしい限りです。

先日、ウサギとモルモットのふれあいの時間に、モルモットを飼育している小学校がクラスで訪れました。「〇〇ちゃんと同じだね」「名前は何?」「この子もかわいいね」など、一般的な小学生よりもずっと興味や関心が強いことに驚かされました。

さて、差し上げているモルモットたちの多くは、子どもの時から当園の「森の仲間たち」の飼育ボランティアさんに撫でてもらい、人に触られても平気なように馴らされているモルモットたちです。おかげで、もらわれて行った先の学校でも子どもたちとのふれあいは得意になってくれているでしょう。

小さなモルモットですが、お子さんたちに与える力は計り知れません。さまざまな人たちとの関わりの中で行われているこの活動が、これからもずっと続いていければと思います。

まさに、合い言葉は「ふるさとは到津の森公園」ですね。



飼育展示係 山崎健大